

保育園名、日付などを入れる（「6月吉日」は不可！）

「お知らせ」だけでは目をひかない。
目立つように、ゴシック体で。

水遊び、プール活動についての大切なお知らせ

自分たちがリスクを明確に認識している、という表明。リスク・コミュニケーションの基本。去年も出しているのであれば、ここは不要。

皆さまもニュースなどでご存知の通り、ここ数年、保育園や幼稚園のプール事故が毎年のように起きています。いずれも、遊んでいる子どもたちを見守るべき職員がいなかった、または、いたものの他の作業をしていたため、発見・救助が遅れたことが原因として指摘されています。

去年もこれを渡している場合は、「昨年もお伝えした通り」として、ここから始める。

自分たちが取る対策と、公的な裏付け

2016年3月31日に内閣府から出された安全のガイドラインで「監視者は監視に専念する」と明記されており、その後も同様の指示が出ています。私たちの園でも深刻な事故をできる限り防ぐべく監視体制、指導体制を見直し、具体的に取り組んでいます（または、取り組み直すことといたしました）。

ここに具体的な取り組みを入れてもよい。できるはずのないことや理想論は書かないこと。「命を必ず守ります」などと書かないこと。

「絶対防ぐ」はありえない。

必要な取り組みをするために、保護者の理解が必要である旨の説明。「夏期休暇」のことは書けないと言う園がありますが、監視係は誰にでもできることではないのです。

しかしながら、監視係は重責で、誰にでもできる役割ではありません。また、職員が休暇をとる時期でもあり、保護者の皆さまにも以下のことをご承知おきいただけますようお願いいたします。

- 1) 過去の主なプール事故事例では、30人近くの子供たちがプールの中にいたと報告されており、監視自体の難しさも指摘されています。そこで私どもでは監視を少しでも容易にするため、1回に水遊び、プール活動をする子どもの数を減らします。その結果、水遊び、プール活動の回数が減ります（水遊びでも、たらいなどに水をためますので監視は必要です）。
- 2) 職員配置やその日の状況で監視体制を確保することができないと判断した場合、当日でも水遊び、プール活動を中止する可能性、プール活動を水遊びに変更する可能性があります。

子どもたちが楽しく、安全に夏を過ごすことができるよう、ご理解のほどよろしく願いいたします。ご意見やご質問がございましたら、いつでも担任や園長、主任などにお声がけください。

最後の行は必須！「保護者の不安や意見＝苦情」ではない。話してくれたということは、「園は聞いてくれる」という信頼や期待が（まだ）あるということ。「伝えてくださってありがとうございます」と、まずは受けとめて。

集団活動は大事ですが、保護者が「うちの子は水遊びだけでいい」と言ってきた場合には、無理にプール活動に参加させてはいけません。その子にもしも万が一のことが起きたら…。こうした保護者は、リスクをわかっているのです。

一方、「どうしてもプールをして」「どうしてプールをしなかったのですか」と言う保護者には、「命が一番大切ですから」とだけ伝えましょう。ここは理屈ではありません。子どもが亡くなった時、「保護者が『入れて』と言ったから」は絶対に通用しないのです。